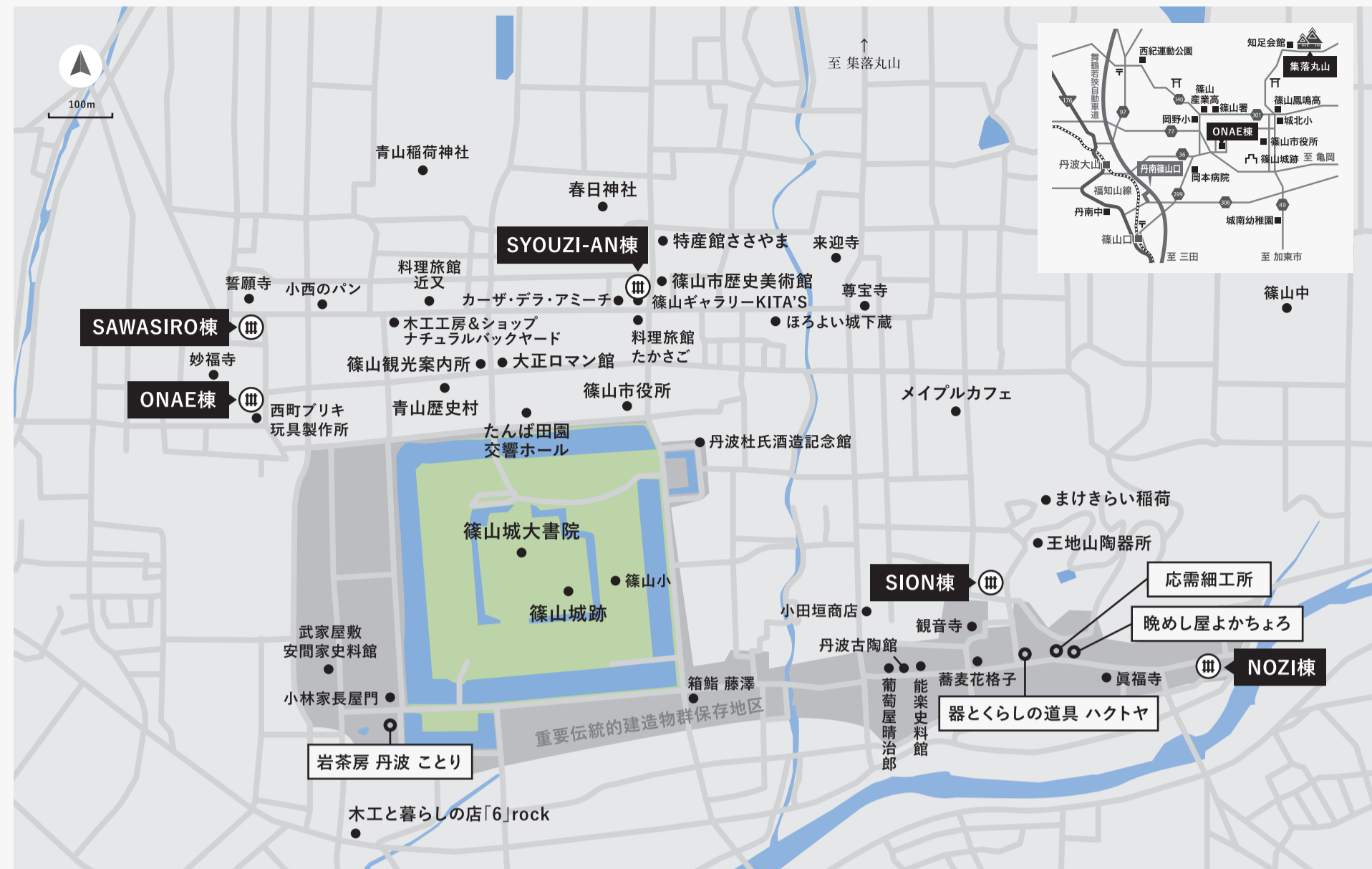


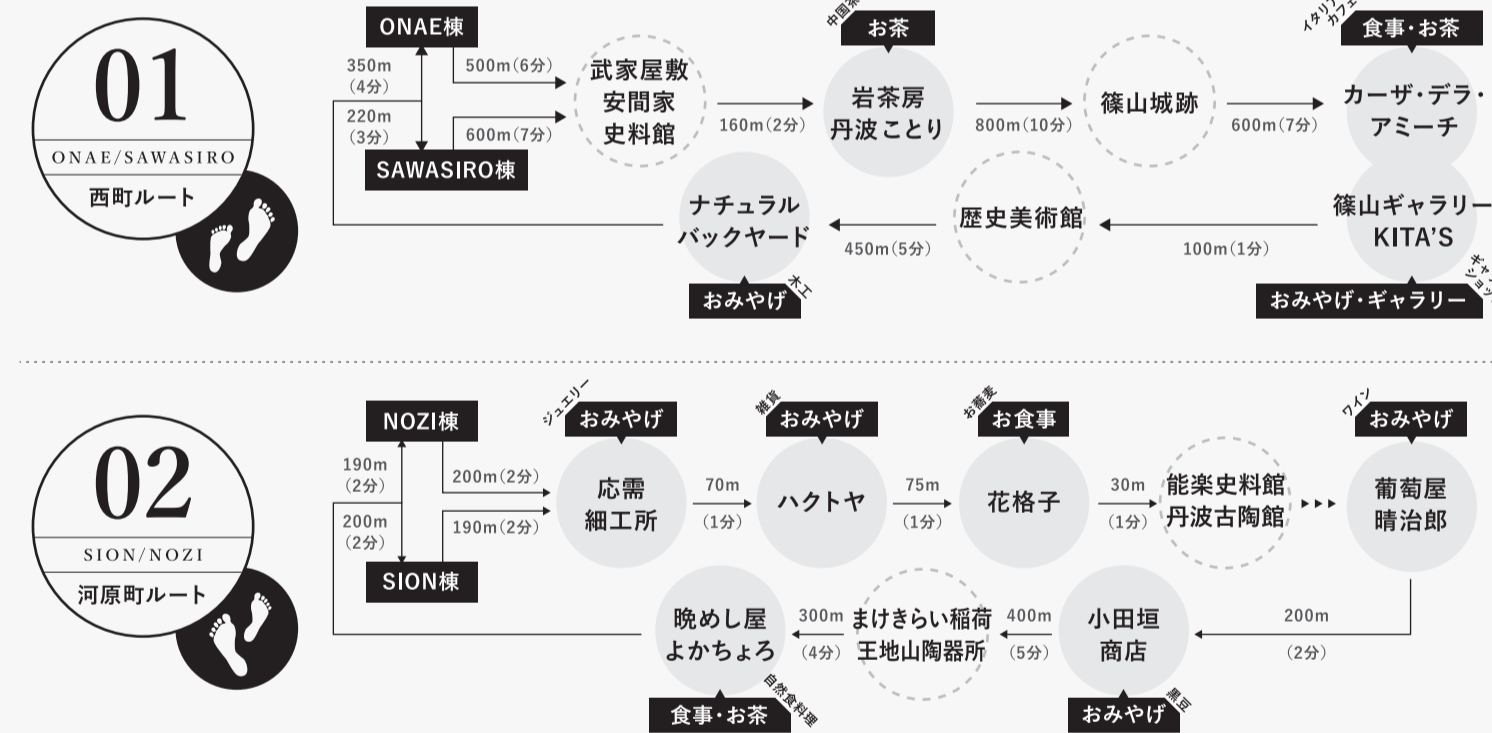
NIPPONIA

篠山城下町ホテル

400年の歴史の中に溶けこむように泊まる



城下町散策ルート



ふらり寄り道セレクト

<p>晩めし屋 よかちよろ 篠山市河原町93-2 [TEL]079-558-8905 月曜定休日 肉や魚も扱う、自然食の晩めし屋。無農薬・自然栽培の野菜を中心に、旬の地野菜、地元肉や卵を使って美味しい食材をより美味しく、素材の味を楽しめる。ご飯がすすむ、お酒がすすむ「晩めし」をお楽しみください。</p>	<p>岩茶房 丹波ことり 篠山市西新町18 [TEL]079-556-5630 水、木定休日 中国福建省武夷山の烏龍茶・岩茶24種類と自家製の点心スイーツのお店。手間ひまかけた岩茶を一軒ずつ小さな急須でご提供。自家製点心、スイーツと共にゆったりとした時間をお楽しみください。</p>	<p>應需細工所 篠山市河原町93-1 [TEL]079-506-2145 月曜定休日 ジュエリーメーカーで17年間宝飾品を作り続けてきた店主が営むお店は、オーダーやリフォームはもちろん、動くジュエリーなどのギミックに驚かす逸品も扱う。彫金教室も開催しているので篠山での体験に。</p>	<p>器とくらしの道具 ハクトヤ 篠山市河原町121-1 [TEL]079-552-7522 月、木定休日 「吉き良き」が今も残る篠山城下町、伝説地区の一角に位置するお店には、オーナー黒さんが、ひとつひとつ愛着を持って選んだぬくもりのある品物たちが並んでいきます。篠山への旅を思い出す逸品をお探しくさい。</p>
---	--	--	---

城下町を歩こう

各宿泊棟から徒歩でアクセスできる、定番から話題のお店まで。歩く速度だからこそ発見できる「出会い」がここにはあります。

CREDIT

企画・発行 | 篠山城下町ホテルNIPPONIA | 編集・デザイン | D&E aggregate 株式会社 / ライティング | 山内 薫 / 写真 | 坂本 円、他写真をご提供くださった皆さま / 印刷 | 株式会社シーズクリエイト
お問合せ先 | 一般社団法人ノト (<http://plus-note.jp/>) 本社 | 〒669-2361 兵庫県篠山市丸山42 / 立町オフィス | 〒669-2323 兵庫県篠山市立町190-6 [TEL] 06-7878-8983 [Fax] 06-7632-3336

INFOMATION

NIPPONIAブランド公式サイト <http://nipponiastay.jp> | 篠山城下町ホテルNIPPONIAサイト <http://sasayamastay.jp> | 篠山城下町ホテルご予約・お問合わせ 0120-210-289
facebook公式ページ <https://www.facebook.com/nipponiahotels>

歴史ある城下町全体をホテルに 新しく懐かしい、旅の愉しみ方がはじまる



城下町に点在する、5棟でひとつのホテル

兵庫県篠山市の中心に位置する篠山城跡は約400年の歴史を持ち、国の史跡にも指定されています。篠山城下町ホテルNIPPONIA(ニッポニア)は、この篠山城跡を取り囲むように5つの宿泊棟が点在する、城下町全体をひとつのホテルと見立てた宿泊施設です。

時間を重ねた歴史ある客室、丹波篠山をはじめとする地域の豊かな食材をふんだんに取り入れた本格フレンチ、既存の歴史施設・飲食店・店舗等と連携した歴史的城下町の町歩きなど、篠山の「400年の歴史に」とけこむように泊まる「新しいスタイルの宿泊体験を提供しています」。

土地に愛される 菊の名前を冠した5棟の客室。

宿泊棟は、築100年を超える明治時代のものから昭和のものまで、歴史的に価値の高い建物を中心。歴史ある空間に包まれ、趣を感じることができます。5棟ある宿泊棟の名前には、ONAE(オナエ)、SAWASIRO(サワシロ)、NOZI(ノジ)、SION(シオン)、SYOUZI-AN(シヨウジアン)と菊の名がつけられました。

実は菊と篠山の関わりは古く、旧篠山藩主が当時の将軍から拝領したと伝えられているのが「お苗菊」です。毎年秋には3000鉢の菊が並び「篠山市菊花展」が開催されるなど、今も菊は篠山の人々から愛されています。

篠山城下町ホテルNIPPONIAは、土地や建物の歴史性を尊重しながら、こうした篠山の文化や歴史、地域で暮らすことの豊かさを実感できる宿泊施設としてオープンしました。

地方創生の これからを示す取組みとして。

この篠山城下町ホテルNIPPONIAの取組みには、今後の地方創生における試金石となる内容が多数含まれています。宿泊施設となつて5棟のような、古民家等の歴史的建造物はいずれもこれまでの考え方でいけば、資産価値(担保価値)がないとされ、改修資金の調達が困難でした。しかし、この今回の計画で一般社団法人ノトは「観光活性化マザーファンド」の出資を受

けて事業展開することとなりました。新しく設立したSPC(特定目的会社)「株式会社NOTEリノベーション&デザイン」が、このファンドからの出資に併せ但馬銀行からの事業融資を受けています。このような形で、古民家再生における新しい投融资の仕組みが実現しました。

また、このホテル事業は関西圏国家戦略特区の特区事業に認定されています。従来、ホテル運営に関わる法律である旅館業法では、ひとつの宿泊施設に対し、各々フロントを設置、管理することが義務付けられています。ですが、この特区事業としての枠組みを活用することで、複数の分散した古民家の宿を「カ所」の受付で管理・運営する旅館業法の特別適用や建築基準法の緩和も可能になり、古民家等の歴史的建築物の再生・活用を軸とした地方創生が実現されました。

古民家には長い時間をかけて積み重ねてきた日本独自の暮らしや文化、歴史的な空間の力強さ、そして地域ごとの特色が詰まっています。それらは今後の観光産業を支える大きな財産となる可能性を秘めています。

古くなったから手放すのではなく地域に今暮らす人々にとってより良いかたちに再生していく。篠山城下町ホテルNIPPONIAは、こうした地域の人々がこれまで築き上げてきた歴史や文化、暮らしを大切に受け継ぎ、新たな日本の宝を創造する取組みとして運営されています。

※観光活性化マザーファンド、地域経済活性化支援機構、日本政策投資銀行及びリサパートナーズが共同で組成したファンド



About / 城下町としての篠山

～守り、受け継がれる日本遺産の歴史的景観～



篠山市は古来京都への交通の要として栄えてきた歴史を持ち、町並みや文化に京都の影響が色濃く反映されています。市内には数多くの史跡や文化財が見られ、中でも慶長14年に徳川家康の命

によって築城された篠山城の城跡とその四方に残る城下町の一部は、国の重要伝統的建造物群保存地区にも選定されています。保存地区の範囲は東西約1500メートル、南北約600メートル、面積は約40.2ヘクタールに渡り、篠山城を中心に武家と商家の町並みが広がっています。

かつて城の外堀を挟んで西から南さらに東側にはかつて武家屋敷が建ち並んでいました。外堀に面する地区は、江戸時代に家臣が集住した区域にあたります。現在ではその武家屋敷の多くが失われてしまいましたが、城下町形成期に整備された道路や屋敷の敷地割りに当時の名残が表れています。かつて従士が集住した区域にあたる西新町の御徒士町通りは、現在も茅葺屋根の武家屋敷群を見ることができ、城下町形成期に城下と城を防御するために植えられた竹林もその姿を現在まで残っています。

一方、篠山城の東南方向にあたる河原町付近は篠山城築城直後から町づくりが進められ、篠山の商業の中心地として栄えた区域です。現在も格子扉やむしこ窓、袖壁、土間の残る妻入商家が多く建ち並んでいます。また、城下町形成期に防御施設として建てられた真福寺や観音寺、藩主の菩提

寺であった本経寺が残り、商家群とともに風情ある町並みを形成しています。

さらに、保存地区では住民の町並み保存に対する意識も高く、明治から昭和初期までに建てられた日本家屋も数多く残され、城下町の歴史的景観を特徴づけています。武家屋敷群と妻入商家群が一体となつて残るその景観は、全国でも貴重な町並みであると評価され、平成16年に「美しい日本の歴史的風土100選」に選ばれたほか、平成26年には「都市景観大賞」の都市空間部門を受賞しています。また、平成27年4月、文化庁が新たに創設した「日本遺産」にも認定され、篠山城下地区や地区内の文化財などもその構成文化財となつています。

篠山城下町には、当時の姿を忠実に復元した「篠山城跡大書院」をはじめ、武家である安間家に残る古文書や古道具を展示する「安間家資料館」、篠山の歴史文化を物語る史料を展示する「青山歴史村」、篠山に伝わる武具、漆芸、絵画などの美術品の数々を展示する「篠山市立歴史美術館」など、城下町の歴史と文化を詳しく知ることができ、施設もあります。それらの施設もまた歴史的建造物を改修してつくられており、展示物とともに建物そのものが貴重な存在となつています。

What's / NIPPONIA

～「ニッポニア」とは?～

NIPPONIAは各地に点在する古民家を、その歴史性を尊重しながら宿泊施設や飲食店、店舗としてリノベーションし、複合宿泊施設として再生していく取り組みです。

ネーミングの由来となったのは「ニッポニア・ニッポン」。日本を象徴する鳥と呼ばれるトキの学術名です。トキと同じように日本の歴史的な古民家や町並みも宝物であり、大切に守り育てていかなければ消えていってしまいます。日本の古民家をホテルとして再生し、新たな価値を提示したい。その土地に古くから根づく暮らしや文化を次代に伝えたい。NIPPONIAという名前にはそんな想いが込められています。

ロゴマークのデザインは日本の伝統工芸再生をライフワークとし、日本はもとよりイタリアなどの海外でも活躍するデザイナーナリ喜多俊之氏が担当。「格子戸」「障子」「光を通す屏」などを、古民家のもつ視覚的形状をシンボル化した上質感や美しいさをシンブルに表現しています。

NIPPONIA

ONAE

日常の喧噪を離れ 心と身体を癒す 贅沢なひととき



篠山城西町西町の旧山陰街道沿いに位置するONAE棟。この建物は明治期に建てられ、かつては元銀行経営者の住居でした。古図によると、建物は現状の約4倍敷地は2倍もの広さがあったとされています。その後、土地や建物の譲渡や解体・崩壊などで消失し、現在の規模になったと思われる。

現在は主屋、離れ、土蔵、庭園が残っており、庭園にはその昔に篠山城の見張り台として使われていたとされているエフキの木がシンボルツリーとして佇んでいます。建物は、篠山城西町の町屋の特徴である下屋（主屋から差し出し、つくられた小屋根）を有し、その高さは周囲の建物と合わせて連続して統一感のある町並みを形成しています。また、むし小窓や荒格子細格子、摺り上げ戸など、篠山城下のデザイン要素で構成されながら、一部洋風のガラス窓があるなどモダンな印象の建物です。

篠山の歴史と文化を五感で感じ ゆったりと時の流れに身を任せる

格子の玄関から入ると、その奥行のある空間にまず驚くことでしょう。柔らかなダウンライトで照らされた室内、高い天井から差し込む光。荒々しくも当時の趣を残した壁。そのどれもが、現代のホテルでは感じるることのできない、特別な空気を感じさせてくれます。

受付対面のモダンなガラス戸に仕切られた4部屋の空間は、電敷きから栗木の板張りにしつらえを変え、栗や松茸、丹波牛や近海で取れた魚介など、地場の食材をふんだんに使用したフレンチを提供するレストランへその姿を変えています。古民家の趣を感じながら味わうフレンチは、舌も心も満たす贅沢な時間を提供してくれます。

レストランを背にした土間部分には、当時の日々営みを感じ取ることができるカマドや、滑車もそのまま残る井戸といったものが、出来るだけ当時の姿を残し、見上げれば、かつてこの場所で煮炊きを行っていたことが分かる煤けた天井も当時の暮らしを感じさせてくれます。当時はまだ珍しかった電話を使用するための電話室もそのまま残っており、この建物が重ねてきた歴史の長さを実感できます。

客室である各部屋にはそれぞれの個性があり、古民家ならではの様々な表情を見ることが出来ます。

離れ、蔵はもちろん、2階に位置する3室も見逃せない魅力にあふれています。2階へは2箇所の階段から上がることができます。土間側から登る部屋に向かう際には、現代の建物にも引けをとらない、解放感のある空間に驚くことでしょう。もうひとつの階段は、まるで隠れ家のような扉から上がっていく位置に。どの部屋も客室としての快適で上質な雰囲気を保ちつつも、その古民家として趣を存分に感じ取れる空間設計が行われています。目の高さで触れることのできる、現代建築ではめったに見ることのない太い梁。窓越しに見おろす中庭。当時の技工が見て取れる格子窓。伝統的な建築物の持つ魅力を損なうことなく、居心地の良さへの細かな配慮が行われた客室は、特別な時間を体験させてくれます。

城下町の町並みを身近に感じ、まるで100年前にタイムスリップしたような、ゆったりとした時間を愉しむことができるONAE棟。日常を離れて、贅沢に過ごす体験は特別な思い出となることでしょう。



102号室 見上げるとロフト部分が、高さのある空間は居心地がよく、また他の部屋とも離れた環境にあるため、ゆったり静かに過ごすことができる。



102号室 リノベーション前の姿。立派な蔵の入口扉はそのまま活かすことに。

ONAE棟の102号室は創建当時からこの建物の蔵として使用されてきた場所をリノベーションした客室です。蔵はもとも大切なものを保管する役割

割をもちます。日用品や頂きもの、先祖代々引き継いできた家宝など家にとって大事な品々を守る場所です。そうしたことから、古い建物ながら、非常に高い堅牢性や快適性が確保され、静かで居心地のよい時間を過ごすことができます。ONAE棟の蔵も、リノベーション開始前には外壁はもとより内部も痛みが進んでいましたが、修復と共に、以前の構造を極力活かしつつ、高さのある気持ちのよい空間へと変貌を遂げました。吹き抜けの2階、現在でいうロフト部分から見渡せる建物の梁や、蔵として使用されていた名残を残す窓枠、そしてなにより部屋入口にそのまま使用している50センチを超える厚みの持つ漆喰の扉は、古民家宿泊の醍醐味を感じさせてくれます。



101号室 工事中の様子。当時の姿を尊重しつつ、リノベーションを行う。



101号室 完成した居室。奥まった位置にある離れとなる。102号室と同様に静かに過ごすことができる。



中庭 日本家屋ならではの風情を感じる中庭。濡れ縁に腰掛け、ゆったりとした時間をお楽しみください。



101号室 当時の装飾を残す床の間のベッドサイドからはONAE棟のシンボルツリーでもあるエフキの大きな木が見える。



104号室 茶室のような低い開口(にしりぐち)が特徴的な、古民家の味わい深い客室。

ONAE棟101号室は、奥まった離れの座敷として中庭を介した位置にあります。以前の部屋の佇まいを活かしてリノベーションを行ったため、床の間の格子も、書棚上部の引き戸も当時の姿を残し、古民家宿泊ならではの温かい雰囲気を感じさせています。回りこんで部屋に入れば、まるでもうひとつの家に帰ってきたような気持ちになります。長い時間を重ねた木材がもつ色合いを愛しむことができます。居室へむかう座敷にも趣があります。また中庭につながる母屋との間には、濡れ縁の渡り廊下があり、季節ごとに姿を変える庭の木々を愛でつつ、ゆったりと腰掛けて過ごすのも、この建物ならではの贅沢な過ごし方です。



左/関西フレンチの巨匠 石井之悠が腕を振るう地元食材を使った本格フレンチ
右上/丹波の黒大豆、丹波栗、丹波栗、丹波栗、丹波栗の山のもの
右下/近海で採れる丹波・但馬の海のもの

地産地消を愉しむ 本格フレンチ

古くから丹波篠山は全国的にも名高い特産品が多く、まさにブランド食材の宝庫といえます。

江戸幕府にも献納され、宮内庁にもお買い上げされたことにより名を高めた「丹波の黒大豆」、持統天皇の奨励により栽培が始まったと言われ、日本書紀(704年)にも登場する「丹波栗」、香りの良さや弾力に富んだ歯ごたえで広く知られる「丹波松茸」、粘りは長芋の約4倍とも言われ、滋養強壮や疲労回復に効果的な「山の芋」といった山のもの、丹波・但馬の鮮魚、蟹といった海のもの、丹波篠山の豊かな森の恵みを受けて育ったイノシシや鹿が楽しめるジビエ、兵庫県内産の肉質の良いブランド牛「但馬牛」。月ごとに旬を迎える滋味豊かな地元産食材を関西フレンチの巨匠 石井之悠が最高の状態でご提供いたします。

丹波・但馬、兵庫のブランド食材をふんだんに盛り込んだ優しい味わい、自然の生命力をいただく本格フレンチ「アロワール・エナチュール」をお楽しみください。

交通アクセス

電車 員

【JR東海道本線】
大阪駅
↓ JR福知山線(JR宝塚線)、約1時間
篠山口駅よりバスにて12分(篠山本町)
↓ 徒歩約2分
篠山城西町ホテルNIPPONIA(ONAE棟)

自動車

舞鶴若狹自動車道丹南篠山口IC
↓ 約10分
篠山城西町ホテルNIPPONIA(ONAE棟)

<宿泊・レストランのご予約・お問い合わせ>

HP: <http://sasayamastay.jp/> TEL: 0120-210-289

施設概要

所在地(受付:ONAE棟)
〒669-2342 兵庫県篠山市西町25

敷地面積(延床面積):

- ・ONAE棟:360坪(142坪)
- ・SAWASHIRO棟:93坪(58坪)
- ・NOZI棟:71坪(38坪)
- ・SION棟:120坪(50坪)
- ・SYOUZI-AN棟(14坪 ※客室部分のみ)

宿泊料金: 30,000円/人~(税込)

オーベルジュ形式(夕食+朝食付き)

※宿泊料金は時期によって料金が異なります。

※宿泊予約の際にご確認ください。

部屋数: 12室

レストラン:ランチ3,024円~ディナー5,400円~(税込)

篠山城西町ホテルNIPPONIAの受付はONAE棟にて行っています。ご宿泊の際はONAE棟にお越しください。受付後、各宿泊棟へご案内させていただきます。





上/美しい梁と、障子越しのやわらかな光に包まれた客室。ひとつひとつ丁寧にセレクトされたインテリアも必見。
左/1階の「篠山ギャラリー-KITA'S」。コラボレーションが生んだ素敵な暮らしの道具の数々は、見るたびに感性を刺激される。

III
客室棟のご案内
5

SYOUZI-AN

日本を代表するデザイナー喜多俊之氏がプロデュースした「SYOUZI-AN(障子庵)」棟は、その名の通り部屋の三方を障子が囲み、和紙を通してやさしい光と高い天井の梁が主役の客室です。
長年に渡り、日本の伝統産業を支える職人たちとコラボレーションしてきた喜多氏が客室内のインテリアをプロデュースし、何世代もの職人たちが紡いできた真の日本クオリティの、どこか篠山の歴史文化を肌で感じる、上質な時間を過ごすことができます。
また客室の下のフロアには、デザイナー喜多氏のギャラリー「篠山ギャラリー-KITA'S」が。長年取り組んできた伝統産業を支える職人たちのコラボレーションで生まれた作品をはじめ、各地の作家たちによる作品発表の場となっています。素敵な暮らしの道具が揃っており購入も可能なギャラリーショップです。



NOZI

III
客室棟のご案内
4

III 伝統的建造物群保存地区とは？

文化庁によって、昭和50年の文化財保護法の改正により伝統的建造物群保存地区の制度が発足。城下町・宿場町、門前町など各地に残る歴史的な集落・町並みの保存が図られるようになりました。平成27年7月現在、重要伝統的建造物群保存地区は90市町村で110地区あり、約26,400件の伝統的建造物及び環境物件が特定され保護されています。NOZIが位置する河原町を含む篠山城下町地区も平成16年に選定され、平成19年には「美しい日本の歴史的風土100選」に選ばれました。この地区は特に他町と比べ改造の度合いが著しく低く、篠山城下町の歴史的景観を最もよくとどめた地域となっています。



NOZIの正面。伝建地区に面した正面は母屋と離れの両方の玄関を持つ。

もう一方の建物脇の路地から中庭を抜けた先に位置する離れ(302号室は、客室内に通り土間のある和洋室。和室と洋室のどちらの部屋にも縁側があり、中庭を眺めながらゆったりとした時間を過ごすことができます。特徴的な格子扉を開ければ、外には風情たっぷりの城下町が広がります。また、創建当時から使用されている土壁も保存状態が良かったため、最低限の修復に留めることで当時の雰囲気をもそのまま残した造りとなっています。

国の重要伝統的建造物群保存地区(重伝建地区)に指定された河原町の一角にあるNOZI棟。創建は明治前期と見られ、長屋として建築されたといわれています。篠山の長屋には珍しく京都の町家に多く見られる平入り厨子(ツシ)を屋根に持ち、間口が狭く奥行きが深い敷地・建物の形状は、創建当時の趣をそのままに残しています。
1棟の中に2部屋のみ客室は、出入口が分かれ、それぞれが独立した造りとなっています。
通りに面する母屋(301号室)は、土間とベッドルームのシンプルながら、シンプルだからこそ感じられる古民家ならではの雰囲気をお楽しみいただけます。

格子扉の向こうに 広がるのは風情豊かな 篠山城下町

III
客室棟のご案内
3

SION



SION棟の門扉をくぐった正面。どこか懐かしい日本家屋の雰囲気があったよう。

懐かしい日本のおうちに、暮らすように泊まる

SION棟は、伝建地区に指定された地区にほど近い場所に位置する建物です。友人同士のグループや3世代、2家族など4名〜9名の人数での宿泊が可能な一棟貸しの客室です。日本家屋の佇まいを残して現代風に改装された外観は、田舎に帰ってきたようなどこか懐かしい気持ちにさせてくれます。
キッチンや二間続きの広々とした和室、庭を望む縁側などがあり、城下町に暮らすように滞在することができます。また、付近には王地山平左衛門稲荷神社(通称：王地山まげきらい稲荷)や公園があり、気ままな散歩はもちろん、大きなお庭にはベンチセットもあるため、街を愉しむ拠点にはぴったりの立地です。



III
客室棟のご案内
2

SAWASIRO

江戸時代から残る古民家は 旅の思い出を彩る

誓願寺にほど近い西町に建つ、このSAWASIRO棟は、かつてお茶屋を営む店舗兼住宅でした。創建は江戸後期とされ、篠山城下町ホテルNIPPONIAの4棟の中で最も古い建物となります。吹き抜けが開放的な土間には創建当時から残る梁が見られ、その歴史と風情を感じることができます。
2階に位置する客室からは、祭礼時には山車を見ることが出来ます。建物中央に位置する202号室は、昔の座敷を改装した最も格式高い客室。縁側からは中庭を望み、四季の移ろいを感じられます。また、昔の姿を残したお風呂をそのまま利用することができ、現代のお風呂とは違う、歴史の趣を愉しめます。
最も奥まった位置にある203号室は、居室が掘りごたつになっており、少し長めの滞在にも最適です。ゆったりとした空気が流れる城下町の中に入り身をおき、静かに時を過ごすことができます。お部屋です。
いずれの客室も古いながらも保存状態が良く、古民家ならではの味のある佇まい。リラックスしてくつろげる空間です。



エントランス
見上げると創建されたのが江戸後期とは思えないほど高さのある空間に驚く。



四季折々の街を望む、 解放的な空間

SAWASIRO棟の201号室は、メゾネット形式のお部屋です。水回りのある1階から、古民家ならではの少し勾配のある階段を上ると、当時の趣を色濃く残す部屋が現れます。アーチ型の開口から入った寝室の窓からは祭礼時には見事な山車を引く姿を間近で見ながら過ごすことができます。また、奥にある居室を進むと2階から室内の土間を見下ろすことができます。創建当時から変わらない建物の梁や柱を見られるのは、この客室の隠れた見どころです。



▲ 右上/夜になれば古民家特有の風情をさらに感じることができる。
右中/使用されていた設備も、手を加え残したことで、当時の雰囲気を感じることもできる。
右下/せり出した梁などを間近にみることで2階の部屋はSAWASIROの隠れたおすすり。
左/エントランス奥には、町屋の特徴でもある長い通路が、抜けた先には、隠れ家のような客室も。